令和8年度全国学力・学習状況調査　美幌町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:3校、児童数:81人　中学校数:2校、生徒数:112人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

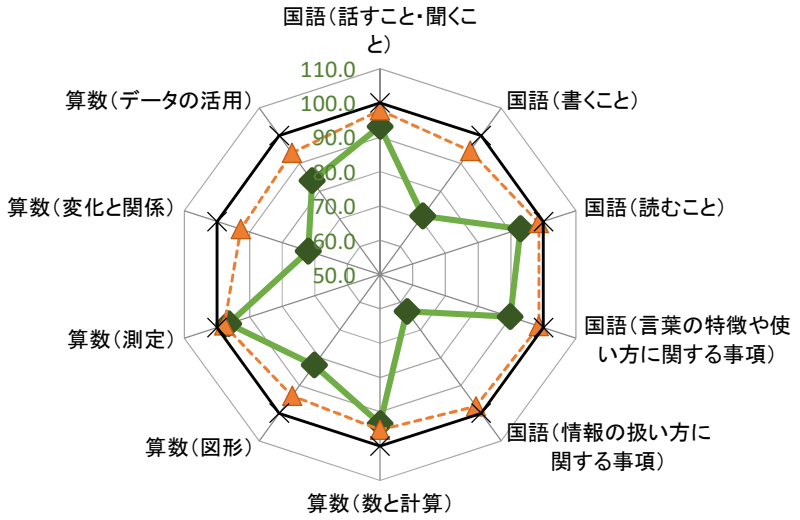
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

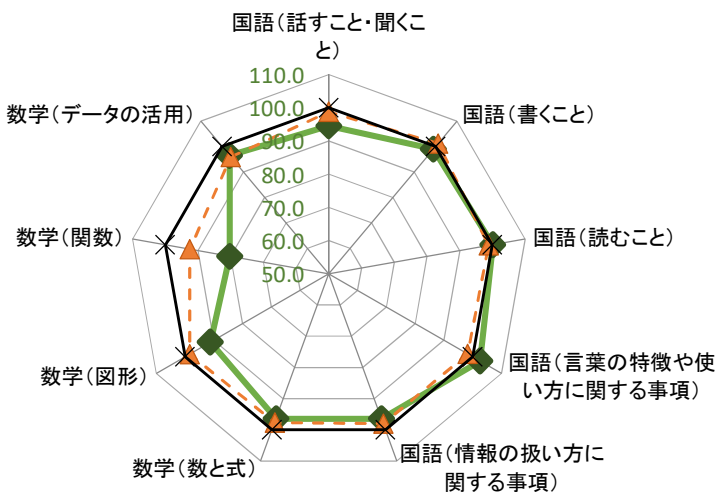
※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
美幌町	52	51	63	53	480
北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	489
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

小学校



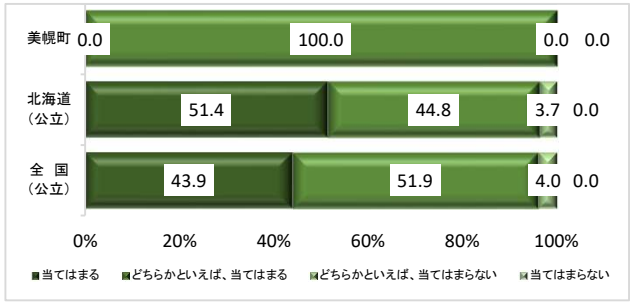
中学校



○ 質問調査の状況

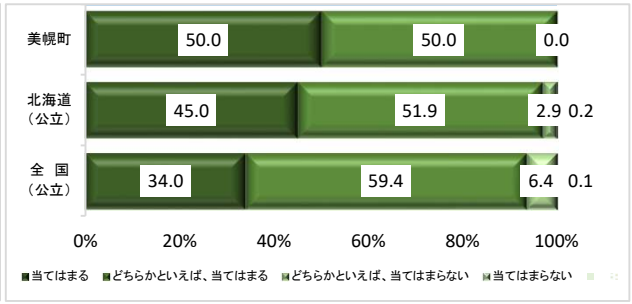
小学校
＜学校質問＞

算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか



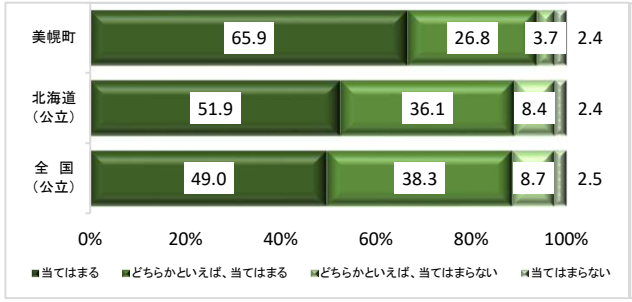
中学校
＜学校質問＞

前年度までに、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができるような指導を行いましたか



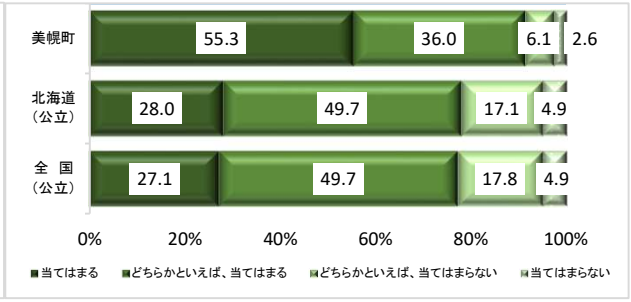
小学校
＜児童質問＞

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



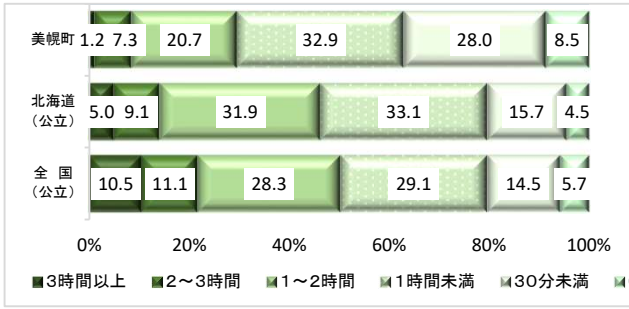
中学校
＜生徒質問＞

国語の授業の内容はよく分かりますか



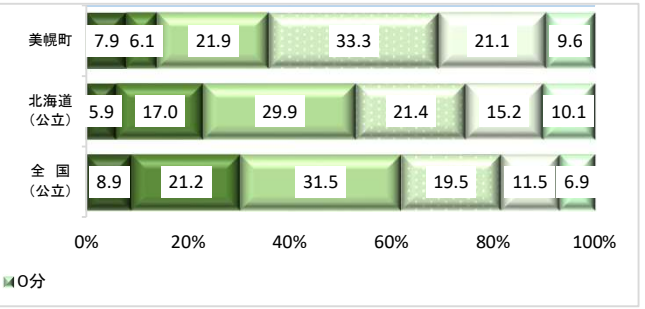
小学校
＜児童質問＞

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



中学校
＜生徒質問＞

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



○ 調査結果の分析

- ＜成果＞
小学校の算数科では、これまで、問題の答えを求めるだけでなく、答えに至るまでの考え方や根拠を明確にし、筋道を立てて説明する力を育む授業づくりに取り組んできた。こうした取組を通して、児童一人一人の理解が深まり、全国平均との差が昨年度より1.2問改善するとともに、質問紙調査においても「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と肯定的に回答した児童の割合が、全国及び全道の平均を上回る結果につながったものと考えられる。

- ＜成果＞
中学校の国語科では、読み手からの助言などを踏まえ、表現の工夫やその効果について考え、自分の文章のよさや改善点を見いだす力を育む指導の充実に取り組んできた。こうした取組により、「書くこと」「読むこと」の領域において昨年度と比較して大幅な伸びが見られ、平均正答数が全国平均と同程度となるとともに、質問紙調査においても「国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道の平均を上回るなど、これまでの学習指導の成果が表れていると考えられる。

- ＜課題＞
小学校の国語科では、「書くこと」「情報の扱い方」及び記述式問題、中学校の数学科では、「関数」「図形」及び記述式問題で全国平均と比較すると差が大きく見られる。こうした結果を踏まえ、各学校では、児童生徒一人一人の学習状況や理解度を丁寧に把握するとともに、それぞれの課題に応じた指導の充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成に向けた授業改善に取り組んでいる。

○ 今後の改善方策

児童生徒一人一人の学習状況やつまずきを的確に把握するとともに、個々の課題に応じたきめ細かな指導や、自分の考えを根拠を明確にして説明する学習活動の充実を図るなど、思考力・判断力・表現力の育成に向けた授業改善を推進する。

小・中学校の教員が連携を深め、児童生徒の発達段階や学習状況を踏まえた合同学習や交流活動を充実させるとともに、合同研修や授業参観を通して指導方法や学習上の課題を共有し、9年間を見通した系統的・継続的な指導の充実と授業改善を推進する。

家庭学習の充実に向け、授業と関連した学習課題の提示や家庭との連携を図るとともに、児童生徒が主体的・継続的に学習に取り組めるよう、学校と家庭が一体となった学習環境づくりを推進する。